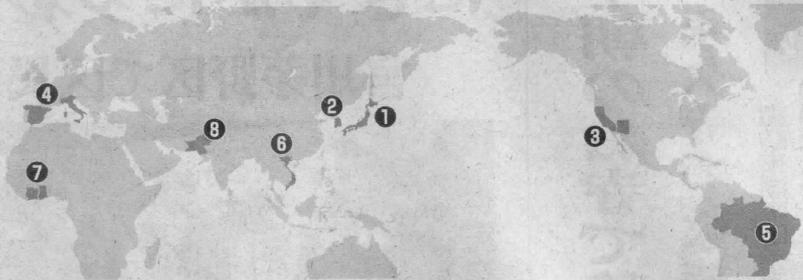


# 気候変動で食料高騰

## 世界各地、日本のコメも

異常気象による食料品価格高騰の例



①日本	24年8月の猛暑	9月にコメが48%上昇
②韓国	24年8月の猛暑	9月にキャベツが70%上昇
③米加州、アリゾナ州	22年夏の干ばつ	11月に米国の野菜が80%上昇
④スペイン、イタリア	22~23年の干ばつ	24年1月にEUのオリーブオイルが50%上昇
⑤ブラジル	23年の干ばつ	24年8月に国際市場のコーヒー豆が55%上昇
⑥ベトナム	24年春の高温	7月に国際市場のロブスタ種コーヒー豆が2倍に上昇
⑦ガーナなど	24年2月の高温	4月に国際市場のカカオ豆が3.8倍に上昇
⑧パキスタン	22年8月の洪水	数週間にわたり農村部の食料品が50%上昇

欧州の研究チーム資料より。変化は前年同月比

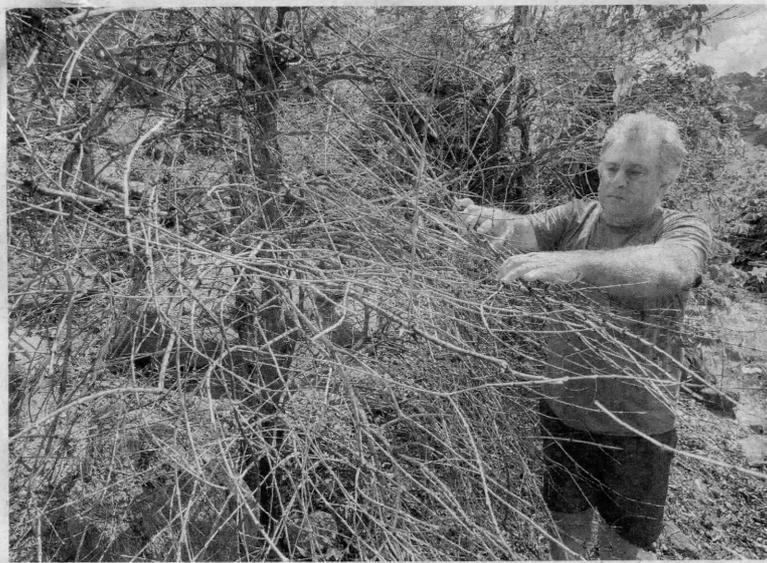
【ニューヨーク時事】気候  
22  
24年調査  
価格が高騰したとの分析を欧

価格が前年同月比48%上昇したケースを挙げた。  
韓国でも同じ時期に暑さが原因でキャベツが同70%も値上がりした。スペインとイタリアでは22~23年に起きた干ばつにより、オリーブオイルが欧州連合(EU)域内で24年1月に50%高となった。ブラジルの干ばつ、ベトナムの

高温を受けて国際市場のコーヒー豆価格が上昇し、西アフリカのガーナとコートジボワールの熱波によりカカオ豆も高騰したという。  
分析には欧州中央銀行(ECB)なども参加した。異常気象の頻発で食料品価格の変動が激しくなると、中央銀行が物価安定の責務を果たすこ

とがますます困難になるかもしれないと指摘。価格高騰の打撃は低所得世帯ほど大きく、買い控えにより健康状態の悪化を招く可能性があることを説明した。また、食料品の高騰と社会不安の関連性に言及し、物価高は民主主義国の選挙結果を直接左右し得るとの見方も示した。

チームを率いたバルセロナ・スーパーコンピューティング・センターのマクシミリアン・コッツ研究員は「気候変動による食料品価格上昇が社会全体にもたらす広範な影響を考慮し、行動するよう呼び掛けるものだ」と強調。影響は「今後さらに悪化していくだろう」と警告した。



乾燥したコーヒーの木に触れる生産者の男性＝1月10日、ブラジル・サンパウロ州(AFP時事)

日本、ブラジルとベトナムのコーヒー豆といった幅広い商品に影響し、インフレ深刻化や格差拡大といった社会問題にもつながっていると警鐘  
いほどの極端な高温や干ばつ、豪雨が価格急騰の要因になったとみられる18カ国の16事例を特定。日本では24年8月の猛暑の後、9月にコメの